



学校だより

4月

令和5年4月7日

横浜市立本宿小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/honjuku/>



『いたわり』で『つながり』をつむいでいきましょう

校長 松比良 聡夫

明るい陽ざしのもと、校庭に春風が気持ちよく吹き抜けています。
令和5年度が始まりました。ご入学、進級おめでとうございます。
新しく91名の1年生が入学し、全校児童639名になりました。子どもたちのやる気に満ちた目が、きらきらと輝いています。



「竜馬が行く」や「坂の上の雲」など多くの歴史小説を書かれた司馬遼太郎さんの生誕100年に今年は当たるそうです。司馬さんは小学6年生の教科書用に書いた「21世紀に生きる君たちへ」という文章に、歴史から学んだことは「人間は自然によって生かされ」「助け合って生きている」としてしています。さらに、「助け合うという気持ちや行動のもとには、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることは、やさしさと言いかけてもいい。」と、続けてこの三つの言葉「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」は、「本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならない」。訓練とは、「例えば、友達が転ぶ。ああ痛かったろうな」と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい。」と説いています。

コロナ禍では、「ソーシャルディスタンス」や「分散登校」、「会話を控える」など、人間関係の分断も進みました。このことは、不登校やいじめ認知件数の増加などにも影響を与えていると思います。

5月から新型コロナウイルスが第5類になることで、子ども同士のつながりを作る取り組みに、より力を入れることができるようになります。授業や行事、縦割り活動などを通して様々な友達と触れ合う機会を多くして、「人はそれぞれ違いがあって当たり前」、「みんなちがって、みんないい」ということを学び、互いを受け入れることができるようにしたいと思います。そして、司馬遼太郎さんの言う「いたわり」の感情を育みながら、助け合う「つながり」を作っていきたいと思います。

授業参観や懇談会も予定通り行えると思いますので、保護者の皆様にもぜひ学校に足を運んでいただき、保護者同士や教職員とのつながりもより強くしていければと思います。



私たち教職員自身も「いたわり」の気持ちを常に育てながら、子ども、保護者、地域、小中学校など、様々な良きつながりをつむぎ、皆様と連携・協働して、子どもたちを育てて参ります。

今年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。